

>> 平成30年度教育学研究科(教職大学院) 在籍者数

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合 計
平成30年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	9	3	12
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小 計	10	8	18
平成29年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	9	3	12
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小 計	10	8	18
	合 計	20	16	36

>> 教育学研究科(教職大学院) 専任教員

研究者教員	実務家教員
遠 藤 孝 夫	高 橋 和 夫
立 花 正 男	小 岩 和 彦
鈴 木 久米男	東 信 之
山 本 奨	多 田 英 史
田 代 高 章	阿 部 真 一
田 中 成 行	森 本 晋 也
清 水 将	小野寺 正 彦
佐々木 全	



>> 入学者選抜方法の概要

○一般学生対象

筆記試験と口答試問及び学修・研究の構想レポート、出身大学(学部)の成績証明書を総合して判定します。
(志願者数／平成29年度20名 平成30年度15名)

○現職教員対象

学修・研究の構想レポート、教育活動・実践履歴書及び口答試問を総合して判定します。なお、現職教員とは、現に教職にある者又は教育関係機関の職員であって、岩手県教育委員会から派遣される予定の者としてします。



交通案内(盛岡駅から)

■バス利用

盛岡駅前バスターミナル11番のりば
岩手県交通バス 駅上山線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大学前」
岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大学前」

■タクシー利用

盛岡駅から約2km 約10分

■徒歩

盛岡駅から約25分



岩手大学 教職大学院

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
URL <http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp

この冊子はグリーン購入法に
基づく基本方針の判断基準を
満たす用紙を使用しています。



高度な専門性と
豊かな人間性・社会性を備えた
力量ある教員を育む
新しい大学院

平成31年度 岩手大学教職大学院

大学院教育学研究科 教職実践専攻(専門職学位課程)



スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 遠藤孝夫

岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は平成28年4月に発足し、平成30年3月に17名の最初の修了生を出すことができました。第1ページを飾ってくれた第1期生は、この4月からそれぞれの職場で、修得した専門的・実践的力量を存分に発揮して活躍してくれているものと思います。

この春、本学教職大学院は現職院生8名、学卒院生10名、合わせて18名の第3期生を迎えることができました。現職院生は岩手県教育委員会から派遣され、2年間の学修の後には管理職やミドルリーダーとして本県学校教育を牽引するスクールリーダーとなることが期待されています。学卒院生は、2年間の学修の後、即戦力となるスーパールーキー教員となることが期待されます。本学では、1年生と2年生全員が院生室で一緒に生活をしており、授業や専門実習に加えて、この院生室でのOJTを通して学ぶことも沢山あるものと思います。また、学卒院生には本学独自の奨学金貸与制度があることも、大きな特徴です。

3年目を迎え、院生への指導の充実・改善を図ることはもちろんですが、今後は、岩手県教員等育成指標が策定されたので、本県の教員研修体系の見直し作業やその実施にも、教育学部と一緒に積極的に参画して行きたいと考えています。本学教職大学院は教育学部と一体となって、地域の学校と教育委員会からの要請や期待に応え、教員養成と教員研修の両面でその中核的機能を果たすことができるよう、全力を尽くしてまいります。



県教委として今後も管理職をめざす人、中核的なリーダー教員になる人、授業力を磨きスーパー教員になる人材も派遣してまいります。現職教員の派遣や実務家教員の人事交流、専門実習等学修環境のサポートなど、さらに主体的に関わっていく責務があると思っています。

専門的・実践的力量やコミュニケーション能力を備え、新たな価値を創造する高い専門性をもった教員養成にこれまで以上に取り組んでいただくことが、岩手の教育の充実に確実に結びついていくものと期待します。

専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 高橋嘉行

いよいよ、2年間の学修を修了した記念すべき1期生の皆さんが、新任地において、その成果を還元する段階を迎えました。現職教員8名については、校長、副校長、主幹教諭、指導主事としての任用、また連携協力校や各地区の中核となる学校への配置がなされ、存分に活躍できる場が整いました。

そして、学卒院生9名も連携協力校を始めとする公立小中学校や私立高校などへ全員が採用され、日々教育実践に打ち込みながら、大きな期待に応えようと張り切っていることでしょう。

3年目がスタートし、新たな期待が高まります。本県においても、教員の資質向上に向けて、「育成指標の作成」や「研修体系の見直し」に取り組んでいます。教職大学院には、まさに教員養成のみならず現職教員の教育や研修の機能も期待します。教員一人ひとりの資質向上によって、子どもたちに教育の力を還元していく面でも大きな成果につながります。

県教委として今後も管理職をめざす人、中核的なリーダー教員になる人、授業力を磨きスーパー教員になる人材も派遣してまいります。現職教員の派遣や実務家教員の人事交流、専門実習等学修環境のサポートなど、さらに主体的に関わっていく責務があると思っています。

専門的・実践的力量やコミュニケーション能力を備え、新たな価値を創造する高い専門性をもった教員養成にこれまで以上に取り組んでいただくことが、岩手の教育の充実に確実に結びついていくものと期待します。



学校マネジメント力開発プログラム



現職院生 鈴木義幸

学校マネジメント力開発プログラムには、小・中・高等学校の現職院生6名が在籍しています。学校経営と組織マネジメントに関する専門的力量の修得により、特色ある学校づくりをリードできる人材の育成をめざしています。大学院での学校ビジョンや学校評価等の理論研究、連携協力校での実践研究、岩手県教育委員会等の教育行政機関での実習を通して、理論と実践の融合を図り、学校現場に還元できるように日々研鑽を重ねています。

子ども支援力開発プログラム



現職院生 金野浩二

教職大学院で学ぶことで、これまで身に付けてきた実践知が理論知と結び付き、教師としての新たな力になっていくことを実感しています。生徒指導や教育相談、学校カウンセリング技法、教育心理学などについて具体的な事例を交えながら学び、子どもたちへの支援について視野を広げることができました。子どもの抱える不安や悩みは多様ですが、ニーズに合った支援を行うために学校・教師はどうあればよいか考えを深め、子どもたちの力になりたいです。

授業力開発プログラム



現職院生 千葉邦彦

子どもたちに確かな学力形成を保障するというプログラムのねらいのもとに、異校種の先生方や学卒院生と共に、講義や実習等を通して知見を広げる毎日を過ごしています。これまでの現職経験を基にしながら、大学院で学んだ「理論」をいかに現場での「実践」と融合させていくのかが試される2年目となります。学ぶ機会をいただいたことへの感謝を忘れずに、日々研鑽を深めていきたいと思っています。



学卒院生 花館めぐみ

M1の講義の中では教育全般に関する内容から、授業の構想や発問など教科に関することまで幅広く学ぶことができました。また、総合実習を通して子ども支援や特別支援の視点が加わり、授業をつくる際にも個々に応じた指導を心がけるようになりました。M2になり、より密に生徒と関わることで授業づくりに生徒の顔が浮かぶようになりました。これまでの学びと自分の研究が目の前の生徒のために役立つものにしていきたいです。



学卒院生 横澤修作

1年間、自身の授業力を高めることを目標として、大学院で得た理論を実習等での実践に生かし、反省するという学びのサイクルを繰り返して行ってきました。その中で、今の私が身につけるべき力を明らかにしていながら、自身の力量を高めることができました。

現在は、1年次に経験した貴重な実習経験や大学院での学びを生かし、自身の専門校種である小学校で、即戦力となり得る実力を身につけるべく、さらに学びを深めています。



学卒院生 菊池紗江

他の院生との意見交流が、また新たな学びへつながっていると感じた1年間でした。疑問に感じた事や深めたい話題があると、異校種を専門とする院生や現職の先生方とすぐに話し合える環境が整っていたり、教授の方々から教えていただくことができたりと、とても有意義な時間を過ごしています。異校種や連携協力校への実習で学んだ、授業や学級経営、子どもを見る視点を元に、この1年も学び続ける姿勢を大切にしていきたいです。

>> 教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年の学校教育の課題が多様化・複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

○教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等

入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)

○学位名称、標準修了年限等

標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



現職院生と学卒院生のグループ協議



リフレクション



県教委での学校マネジメント力開発実習

>> カリキュラムについて

4つのプログラム制

学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

① 学校マネジメント力開発プログラム (現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、指導主事及び主幹教諭等)を育成する。

② 授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。

③ 子ども支援力開発プログラム

いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。学校心理士の受験資格を得ることが可能。

④ 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量を備えた人材を育成する。特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ 学力の向上と学習意欲
- ④ ICT 活用教育の実践と課題
- ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑧ 学校経営の実践と課題
- ⑨ 岩手の教育課題
- ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

選択科目

学校マネジメント力開発プログラム

- ① 学校マネジメントの理論と実践
- ② いわたの復興教育の実践と課題 など5科目

授業力開発プログラム

- ① 教科の指導と評価の実践研究
- ② 授業の構想と教材研究 など15科目

子ども支援力開発プログラム

- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
- ② 発達援助の理論と実践 など6科目

特別支援教育力開発プログラム

- ① 特別支援学校の実践力I
- ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

実習科目(必修)

学段段階の基礎的・基本的な教育実習(現職院生の場合は教職経験)を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資するための実践的力量を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

>> 履修スケジュール

	1 年 次											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 卒 院 生 の 場 合	専攻共通科目(6科目・12単位) プログラム別選択科目(8科目開講)						専攻共通科目(4科目・8単位) プログラム別選択科目(12科目開講)					
	特別支援教育力開発プログラムの実習は、他のプログラムとは別に行います。						授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習(1日/W、計160H)※附属校					
	教育実践リフレクションI 授業力開発基礎演習(2H/W、計10H) 子ども支援力開発基礎演習(2H/W、計10H) 学校マネジメント力開発基礎演習(集中、計10H)						教育実践リフレクションII 特別支援教育力開発実習I(学校マネジメント力・授業力開発実習)(集中、4W)※附属特支 教育実践研究報告書中間発表会					
	授業力開発実習(1日/W、計80H)※公立連携校						子ども支援力開発実習(1日/W、計60H)※附属校で実施					
現 職 院 生 の 場 合	専攻共通科目(6科目・12単位) プログラム別選択科目(8科目開講)						専攻共通科目(4科目・8単位) プログラム別選択科目(12科目開講)					
	学校マネジメント力開発実習(集中、計40H)※県教委及び総合教育センター等						子ども支援力開発実習(1日/W、計60H)※附属校で実施					
	学校マネジメント力開発実習は全員が行います。						特別支援教育力開発実習II(授業力開発実習)(集中、2W)※附属特支 教育実践研究報告書中間発表会					
	授業力開発実習(1日/W、計80H)※公立連携校						子ども支援力開発実習(1日/W、計60H)※附属校で実施					

>> 時間割例 (子ども支援力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目

[1 年 次 前 期] 学修導入期・研究課題設定期						[1 年 次 後 期] 学修展開期・研究課題探究期					
曜日	1	2	3	4	5	曜日	1	2	3	4	5
月	学習支援のための教育心理学	学力の向上と学習意欲		特色あるカリキュラムづくりの理論と実際		月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		授業の構想と教材研究	学校カウンセリングの技法
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践	子ども支援のための学校臨床心理学			火	学習指導要領とカリキュラム開発		発達援助の理論と実践		
水	岩手の教育課題		理科教育の実践と課題	心理教育的援助サービスの理論と実践	教科の指導と評価の実践研究	水	学校経営の実践と課題				
木						木	総合実習(①学校マネジメント力開発実習 ②授業力開発実習 ③子ども支援力開発実習)				
金	教育実践リフレクションI ①学校マネジメント力開発基礎演習 ②授業力開発基礎演習 ③子ども支援力開発基礎演習			木曜日は配属校で実践実習をします。		金	教育実践リフレクションII				

[2 年 次 前 期] 学修深化期・研究課題深化期						[2 年 次 後 期] 学修完結期・研究課題総括期					
曜日	1	2	3	4	5	曜日	1	2	3	4	5
月				生徒指導・教育相談の事例研究		月					
火	理論と実践の往還・融合による研究課題とその解決策の検証と深化を図っていきます。					火	研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。				
水						水	生徒指導・教育相談の理論と実践				
木	学校マネジメント力開発実習(4月、9月)、授業力・子ども支援力開発実習(6月)					木	授業力・子ども支援力開発実習(11月)				
金	教育実践リフレクションIII					金	教育実践リフレクションIV				

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目			実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	計
	20	プログラム別必修 4	プログラム別選択 4	科目選択 6	10	4	48

授業や専門実習では、現職院生と学卒院生がそれぞれに学んだり、協働・交流し学びあったりします。

「理論と実践の融合」を目指す教職大学院の授業では、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員(小・中・高・特支校長等経験者)が担当し、多くの授業をチームティーチングで実施し演習を重視します。

院生の学修は、学校経営学、教育法法学、教科教育学、学校臨床心理学、特別支援教育学をそれぞれ専門とする研究者教員8名と実務家教員7名が配置されています。加えて教育学部所属の22名の研究者教員がサポートします。

「教育実践研究報告書」は、修士論文と異なり、院生一人一人が学校現場に貢献しうるテーマを選定し、その内容に応じて研究者教員と実務家教員がチームとなりサポートします。

>> 専門実習について



Q 1 マネジメント力開発実習とは、どんなことをするの？

学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。

盛岡第三高等学校

Q 3 子ども支援力開発実習とは、どんなことをするの？

教科指導以外の教育活動(学級経営、進路指導、教育相談等)を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

附属中学校

Q 2 授業力開発実習とは、どんなことをするの？

授業づくりを実習します。単元の指導計画を立案し、授業実践とその評価まで行います。その中で具体かつ有効な授業方法を開発、検証します。

上田中学校

Q 4 特別支援教育力開発実習とは、どんなことをするの？

特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

附属特別支援学校

>> 教育実践研究テーマの例

- 学校マネジメント力開発プログラム**
- 教員の研修に対する意識と効果的な研修プログラム開発について
 - 外部人材を有効活用するための学校組織体制の現状と課題
 - 「いわての復興教育」の推進に関する研究～県内高等学校における復興教育～

- 授業力開発プログラム**
- 「小学校道徳科」における評価方法の研究～パフォーマンス課題・評価を手がかりに～
 - 児童自身による「学び方」の自覚化を促す研究
 - 中学校社会科公民的分野における法教育の単元開発～ルールと法の関連に焦点をあてて～

- 子ども支援力開発プログラム**
- ほめられたと認知する際に存在する要因と効果的なほめの関係

- 特別支援教育力開発プログラム**
- 知的障害特別支援学校における進路学習の内容・方法の開発

>> 修了生インタビュー

釜石市立唐丹小学校 校長 佐々木康人

学校をマネジメントしていく立場となり、その重責に緊張感を覚える毎日です。本校の子どもたちは、地域と家庭と学校が東日本大震災津波を乗り越え、互いに連携し合うことで健やかに成長してきました。昨年度は新校舎建設の全工事が完了し、小学生と中学生が共に新しい学び舎で学校生活を送っています。「小中連携」と「復興教育」を中心に据え、教職大学院で学ばせていただいたことを子どもたちに還元していきたいと考えています。

宮古市教育委員会 指導主事 信夫辰規

2年間の学びを修了し、今年度から指導主事として教育行政に携わっています。大学院では、子ども支援力開発プログラムを専攻し、教育相談等について学びました。現在は目の前に子ども達はいませんが、子ども一人一人の発達に合わせた支援について学校と共に考えているところです。ケース会議や研修等を通して、問題解決への教育的支援の方向や方略を共に考えることで、子ども達や先生方の支えになれるように、取り組んでいきたいと思っています。

盛岡第三高等学校 教諭 砂沢 剛

この春、2年間の学修を終え高等学校の現場に戻りました。現在1学年主任という学年をまとめる立場で、大学院で学んだことが様々な場面で想起されます。大学院修了以前にはあまり意識していなかった視点として、学校経営計画と学年経営とのリンクや、特別な支援を必要とする生徒への対応、教科指導における評価のあり方などが挙げられます。今後の教育活動でも様々な場面で大学院での学びが、自然と生かされることと思われます。

盛岡市立仙北小学校 教諭 辻 裕美香

現場に出てから毎日「どうすれば子どもたちのためになるか」について考えています。2年間教職大学院で学んだことが、今の私を確実に支えています。1つ目は、信頼関係づくりです。大学院で培った連携力を生かし、先生方や子どもたちと交流しています。2つ目は学級経営です。実習での経験を生かし、良い所は褒め、気になる所は適切に叱りながら、子どもたちを育てています。今後は、大学院で研究したことを生かしていきたいです。

- 修了生進路**
- | | |
|--|--|
| <p>【現職院生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 釜石市立唐丹小学校校長 大船渡市立大船渡中学校副校長 宮古教育事務所宮古市教育委員会指導主事 宮古市立磯鶏小学校主幹教諭 花巻市立花巻小学校教諭 奥州市立江刺第一中学校教諭 岩手県立盛岡第三高等学校教諭 岩手県立盛岡みたけ支援学校準備室教諭 | <p>【学卒院生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 盛岡市立城南小学校教諭 盛岡市立仙北小学校教諭 奥州市立胆沢中学校教諭 宮古市立崎山中学校教諭 岩手県立千厩高等学校教諭 宮城県立多賀城市立第二中学校教諭 岩手県立一関第二高等学校講師 一関学院高等学校講師 盛岡誠桜高等学校非常勤講師 |
|--|--|



>> 学修支援Q&A

Q 1 どんな施設で学修するの？

教育学研究科棟という教職大学院専用の施設があります。院生室では一人一台のパソコンが貸与され、無線LANも完備。演習室には電子黒板等のICT機器も備え、いつでも利活用できます。

Q 2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなこと？

岩手県の教員採用試験に合格し、その上で教職大学院に進学した学卒院生や在学中に合格した学卒院生は、大学院修了(最大2年間)まで名簿記載期間を延長することができます。なお、合格した出願区分の学校種・教科等の専修免許の取得が条件です。

安心して学修に専念できます。

Q 3 奨学金制度とは、どのようなこと？

学卒院生を対象とした教職大学院奨学金の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。